

情報

歴史まちづくりに取り組む 14 都市の首長が参加
第 6 回中部歴史まちづくりサミット in 三島



中部地域の歴史まちづくりに積極的に取り組む 14 都市の首長が一堂に会し、歴史まちづくりに関するノウハウの共有やネットワーク強化などを目的とし、開催されます。県内では初めての開催となり、本市のほか掛川市と伊豆の国市も参加します。

時 10 月 16 日(火)午後 1 時～5 時 20 分

場 三嶋大社社務所 1 階大広間

内 ▶ 基調講演「三島市歴史的風致維持向上計画への期待」▶ パネルディスカッション「～歴史まちづくり法施行 10 年を迎え～これまで・これからの取り組み」▶ 記念イベント（農兵節など）

定 200 人（事前申込優先、当日受付は先着順）

用 10 月 9 日(火)までに FAX またはメールで都市計画課
FAX 973・7241、✉ toshikei@city.mishima.shizuoka.jp

申込項目 ①氏名②住所（市町村名のみ）③所属区分（個人・会社・団体・行政関係・その他）④連絡先（電話番号※携帯可）

■歴史まちづくり

地域固有の歴史的なまちなみ、三嶋大祭りや地域の祭礼、歴史的に価値の高い建造物などを活かしたまちづくりを進めることをいいます。

市では平成 28 年に県下で初めて国に認定された「三島市歴史的風致維持向上計画」により国の支援を受けながら、様々な事業を展開することにより歴史文化を活かしたまちづくりを進めています。

※詳細はホームページをご確認ください

問 都市計画課 ☎ 983・2631



▲ 前回の中部歴史まちづくりサミットの様子



▲ 会場の三嶋大社

情報

美しい景観とともに、みんなでドローンの映像に写りませんか
寄附者限定！ドローン撮影イベント in 山中城跡

時 11 月 17 日(土)午前 10 時から

※雨天の場合は、18 日(日)に順延

場 山中城跡公園

内 ▶ ドローンによる撮影（参加者全員を撮影）▶ 学芸員による山中城跡案内（普段は入れない障子堀や敵堀に入ることができます）▶ 発掘現場の見学 ▶ 甲冑武者による山中城合戦の寸劇、撮影会 ▶ スポーツチャンバラ大会

※撮影した映像は後日インターネット上にアップします。

用 10 月 31 日(火)まで実施のガバメントクラウドファンディング（山中城跡の維持管理）にてご寄附いただいた人
※寄附金額は問いません。寄附者全員にイベントのご案内のはがきを送付しますので、当日お持ちください。

■ガバメントクラウドファンディングについて

自治体が特定の目的のためにインターネットなどを通じて多くの人から寄附を募るものです。国指定史跡の山中城跡を良好な状態で後世へ引き継ぎ、魅力ある

史跡公園として多くの観光客が訪れる「日本一美しい山城」を目指します。

■寄附方法

①ふるさとチョイスのホームページから申請

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/341>

②三島市のホームページからダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、財政課（市役所西館 2 階）へ提出

※申込書は財政課、郷土文化財室にも備え付け

■税控除が受けられます

ふるさと納税と同じく税控除が受けられます。

■その他特典

①寄附金額 50,000 円以上：先着 10 人に、自分だけのドローン撮影を実施

②寄附金額 5,000 円以上：全員で撮影した DVD を後日送付します

問 郷土文化財室（生涯学習センター 4 階）☎ 983・2672

歴史の小箱

No.365

近代三島をつくった人々(文化編)

今回は企画展「近代三島をつくった人々」から、幕末・明治に三島で活躍した人々の蔵書について紹介します。

企画展「近代三島を作った人々-後期：文化編-」を開催！
開催期間は10月13日(出)～平成31年1月3日(休)です。

郷土資料館 ☎ 971・8228

明治時代前半は、政治・行政・産業・教育などさまざまな面で社会が大きく変わりました。そして、この地域で変革の担い手となったのは、江戸時代に村の名主や三島宿の宿役人をつとめていた地域の有力者たちでした。彼らの多くは、幼いころから高度な教育を受けており、さまざまな事業を進める傍ら、俳句や和歌などの文化的な活動にも熱心に取り組んでいました。

例えば、佐野村の勝俣家は江戸時代には名主をつとめており、江戸時代後期から明治時代にかけて俳人として活躍した滝之本連水(つきのもとれんすい)を輩出しています。連水の父、常昭(つねあき)も花岳(かがく)の号を持つ俳人でした。

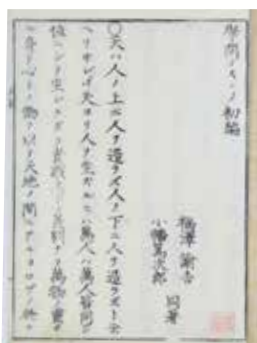
安久村の杉山家は、江戸時代

には名主などの村役人を、明治時代には戸長・副戸長、中郷村村長などをつとめていた家柄です。江戸時代後期から明治初期にかけての当主の信安(のぶやす)は、牧之郷(まきのこう)の飯田家からの婿養子で、当時伊豆では名を知られていた国学者・歌人である飯田守年(もりとし)の義弟にあたります。それもあつてか、信安は和歌を得意としていました。

彼らの家は、多くの蔵書を抱えていました。その内容は、漢籍(かんせき)など江戸時代の基本的な教養となるもの、和歌や俳句など自分の文化活動に関するものなどが多くを占めています。以下で紹介するような西洋文明を紹介したものなども含まれています。

① 『学問ノススメ』

福沢諭吉著、杉山家旧蔵



▲学問ノススメ

② 『西洋事情』

福沢諭吉著、勝俣家旧蔵

海外の政治・経済・技術など

を紹介しています。



▲西洋事情

③ 『文明開化』

加藤祐一著、杉山家旧蔵

著者は大阪商法会議所(現大阪商工会議所)設立に貢献しており、西洋の経済制度を広く紹介しました。



▲文明開化

これらの蔵書からは、地域社会のリーダーたちが明治時代の社会の変化に対応するため、新しい制度や技術に関する知識を得ようとしていた姿勢がうかがわれます。

わたしのおばあちゃん

当番 おいで リンさん

私のばあばは、津軽三味線やしぎんなどをやっていて、地域の活動などにも積極的に参加しています。特に趣味の三味線では、青森の大会に出場しています。私が小さいころは、一緒にばあばの応援に行きました。

私はゴルフをやっていて、その送り迎えをしてくれるやさしいばあばです。車に乗ることが多いので事故に気をつけてほしいです。

私の将来の夢はプロゴルファーです。優勝して、やさしくて大好きなばあばに恩返ししたいです。



中西-江(65才)
生出莉子(中郷小4)